

[シラバス 目次]

【研究展開科目】

福祉健康科学特別演習Ⅰ	53
福祉健康科学特別演習Ⅱ	54
福祉健康科学特別研究Ⅰ	55
福祉健康科学特別研究Ⅱ	56

授 業 科 目 名 (科目の英分名)
福祉健康科学特別演習 I (Seminar in Welfare and Health Sciences I)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	2	1	通年		全教員

【授業のねらい】

学位論文研究への着手を促すことを目的として、3 コースが合同で研究紹介および構想発表（研究テーマや研究計画を中心とした発表）を行うとともに指導やディスカッションもあわせて行う。これにより、健康医科学・福祉社会科学・心理学に関する知識や視点をいかした幅広い研究指導を行う。

【具体的な到達目標】

- ・健康医科学・福祉社会科学・心理学を見渡した領域横断的な研究の意義と研究倫理を理解することができる。
- ・医科学を含め、様々な研究のアプローチを理解し、自らの研究の意義を考えることができる。
- ・構想発表において、学位論文研究のテーマや研究計画等の構想を効果的にプレゼンテーションできる。
- ・他領域の教員・学生とのディスカッションを通じて、自らの研究に関する理解を深めたり修正したりすることができる。

【授業の内容】

第 1 回：領域横断型研究に向けてのガイダンスと研究倫理

第 2-3 回：研究紹介とディスカッション①：健康医科学領域

第 4-5 回：研究紹介とディスカッション②：福祉社会科学領域

第 6-7 回：研究紹介とディスカッション③：心理学領域

第 8 回：様々なアプローチ（エビデンスとナラティブ、量的研究と質的研究、仮説検証型研究と仮説生成型研究等）

第 9-15 回：構想発表とディスカッション

教員及び研究指導する専門領域は別紙のとおり

☆学生がより深く学ぶための工夫

ディスカッションを取り入れることにより、より深い理解と主体的な学びを促す。

【時間外学習】検討の進捗にあわせて指示する。各回において明確になった課題や論点について関連する論文等を精読する等の学習を行うこと。

【教科書】 なし。資料は適宜配付する。

【参考書】 検討の進捗にあわせて指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

構想発表（50%）、授業への積極的な参加（50%）

【注意事項】 受講生には積極的な参加を求める。

【備考】 研究紹介の各回は、3 コースの教員が当該分野の研究テーマや動向について紹介し、それに基づくディスカッションを行う。構想発表の各回は、3 コースの教員と学生が集まり、一人 30 分程度で研究構想の発表をし、それに基づくディスカッションを行う。

授 業 科 目 名 (科目の英分名)
福祉健康科学特別演習Ⅱ (Seminar in Welfare and Health Sciences Ⅱ)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	2	2	通年		全教員

【授業のねらい】

学位論文研究の深化・展開を助け、実りある成果へとつなげることを目的として、3コースが合同で中間発表および最終発表を行う。その過程では、研究計画の修正・追加や研究成果の明確化に関する指導やディスカッションもあわせて行う。これにより、健康医科学・福祉社会科学・心理学に関する知識や知見をいかした幅広い研究指導を行う。

【具体的な到達目標】

- ・「福祉健康科学特別演習Ⅰ」での取組に基づき、健康医科学・福祉社会科学・心理学を見渡しつつ学位論文研究を進めることができる。
- ・医科学を含め、様々な研究のアプローチを理解し、自らの研究の意義を明確にすることができる。
- ・中間発表及び最終発表構想発表において、学位論文研究の進捗状況や成果を効果的にプレゼンテーションできる。
- ・他領域の教員・学生とのディスカッションを通じて、自らの研究に関する理解を深めたり修正したりすることができる。

【授業の内容】

第1-7回：中間発表とディスカッション

第8-15回：最終発表とディスカッション

教員及び研究指導する専門領域は別紙のとおり

☆学生がより深く学ぶための工夫

ディスカッションを取り入れることにより、より深い理解と主体的な学びを促す。

【時間外学習】検討の進捗にあわせて指示する。各回において明確になった課題や論点について関連する論文等を精読する等の学習を行うこと。

【教科書】 なし。資料は適宜配付する。

【参考書】 検討の進捗にあわせて指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

中間・最終発表（70%）、授業への積極的な参加（30%）

【注意事項】 受講生には積極的な参加を求める。

【備考】 中間発表の各回は、3コースの教員と学生が集まり、一人30分程度で研究の進捗状況等の発表と、それに基づくディスカッションを行う。最終発表の各回は、3コースの教員と学生が集まり、一人30-40分程度で研究成果の発表と、それに基づくディスカッションを行う。

授 業 科 目 名 (科目の英分名)
福祉健康科学特別研究Ⅰ (Seminar in Psychological Research Ⅰ)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	4	1	通年		全教員

【授業のねらい】

所属するゼミを中心として、学位論文研究に取りかかる。具体的には、専門領域に関する研究倫理について指導を行うとともに、専門領域に関する先行研究の精読・分析・ディスカッションを重ね研究領域の理解（どのような研究がなされているのか）と研究課題の探究（どのような研究ができるのか）を進める。さらに、学位論文研究のテーマの検討（研究で何を明らかにしたいのか）と、研究計画の具体化・精緻化（どのように研究を進めるのか）を進め、研究の構想を明確にする。その過程では、研究の内容に応じて、関連する他の教員による指導を行う。

【具体的な到達目標】

- ・ 領域固有の研究倫理を理解することができる。
- ・ 専門分野に関するこれまでの研究の動向を十分把握し、学位論文研究の方向を明確にすることができる。
- ・ 研究計画（実験や調査のデザイン、分析方法の選択、仮設の設定等）を明確にすることができる。
- ・ 自らの学位論文研究のオリジナリティを考えることができる。

【授業の内容】

専門分野に関する「倫理教育」を行った上で、個々の学生の研究テーマや研究手法、あるいは研究の進捗状況に応じて、以下の内容を組み合わせる：①「専門分野の先行研究の収集・整理・分析」、②「研究テーマの検討・決定」、③「研究方法や分析方法の検討・決定」、④「仮説の立案」、⑤「研究計画に関する倫理面の検討」⑥「予備実験・予備調査等の実施」

教員及び研究指導する専門領域は別紙のとおり

☆学生がより深く学ぶための工夫

個々の学生の状況に応じて、ディスカッションや少人数指導を行い、より深い理解と主体的な学びを促す。

【時間外学習】 研究の進捗にあわせて指示する。

【教科書】 なし。資料は適宜配付する。

【参考書】 研究の進捗にあわせて指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

研究の取り組み、ゼミやディスカッションへの積極的な参加を総合して評価を行う。

【注意事項】 なし。

【備考】 なし。

授 業 科 目 名 (科目の英分名)
福祉健康科学特別研究Ⅱ (Seminar in Psychological Research Ⅱ)

必修 選択	単位	対象 年次	学期	曜・限	担当教員名
必修	4	2	通年		全教員

【授業のねらい】

所属するゼミを中心として、学位論文研究を進展させる。具体的には、「福祉健康科学特別研究Ⅰ」での取組に基づき、適宜研究計画の深化・修正・追加を加えながら実験や調査を進めるとともに、得られたデータの分析や仮説の検証を行い、考察の深化や研究成果のまとめを進める。その過程では、研究の内容に応じて、関連する他の教員による指導を行う。また、専門領域に関する研究倫理に照らして確認・指導を行う。

【具体的な到達目標】

- ・計画に即して学位論文研究を進めるとともに、計画に適切な修正を加えることができる。
- ・得られたデータに基づき考察を展開し、専門的な知見を示すことができる。
- ・自らの学位論文研究のオリジナリティを明確にすることができる。
- ・自らの学位論文研究について研究公正を確かなものとするすることができる。

【授業の内容】

個々の学生の研究テーマや研究手法、あるいは研究の進捗状況に応じて、以下の内容を組み合わせる：①「研究計画の実行あるいは修正」、②「データの収集」、③「データの分析」、④「仮説の検証と考察」、⑤「倫理面の検討」

教員及び研究指導する専門領域は別紙のとおり

☆学生がより深く学ぶための工夫

個々の学生の状況に応じて、ディスカッションや少人数指導を行い、より深い理解と主体的な学びを促す。

【時間外学習】 研究の進捗にあわせて指示する。

【教科書】 なし。資料は適宜配付する。

【参考書】 研究の進捗にあわせて指示する。

【成績評価の方法及び評価割合】

研究の取り組み、ゼミやディスカッションへの積極的な参加を総合して評価を行う。

【注意事項】 なし。

【備考】 なし。

研究展開科目に係る教員及び研究指導する専門領域

	氏名	研究指導内容
1	相澤 仁	社会的養護、児童・家庭福祉領域に関する研究指導を行う。
2	朝井 政治	内部障害系理学療法学領域、特に呼吸器疾患を有する症例の理学療法の効果検証に関する研究指導を行う。
3	穴井 博文	臨床医工学領域に関する研究指導を行う。
4	石崎 敏理	薬理学領域に関する研究指導を行う。
5	伊東 弘樹	薬物動態領域に関する研究指導を行う。
6	猪股 雅史	消化器外科・小児外科学領域に関する研究指導を行う。
7	井原 健二	小児科学領域に関する研究指導を行う。
8	今井 浩光	医療倫理学領域に関する研究指導を行う。
9	上村 尚人	臨床薬理学領域に関する研究指導を行う。
1 0	小野 克重	病態生理学領域に関する研究指導を行う。
1 1	片岡 晶志	運動器領域、特に骨リモデリングに関する研究指導を行う。
1 2	上白木 悦子	保健医療や医療福祉におけるソーシャルワークの領域に関する研究指導を行う。
1 3	河上 敬介	基礎理学療法学領域、特に病態を持つ筋への理学療法効果とそのメカニズムに関する研究指導を行う。
1 4	河野 憲司	歯科口腔外科学領域に関する研究指導を行う。
1 5	北野 敬明	麻酔科学領域に関する研究指導を行う。
1 6	久保田 敏昭	眼科学領域に関する研究指導を行う。
1 7	兒玉 雅明	内科学領域、特に消化器内科学、消化器疾患病理に関する研究指導を行う。
1 8	小林 隆志	微生物学免疫学領域に関する研究指導を行う。
1 9	斉藤 功	公衆衛生・疫学領域に関する研究指導を行う。
2 0	重光 修	救急医学領域に関する研究指導を行う。
2 1	柴田 洋孝	内分泌代謝・膠原病・腎臓内科学領域に関する研究指導を行う。
2 2	白石 憲男	総合外科・地域連携学領域に関する研究指導を行う。
2 3	杉尾 賢二	呼吸器・乳腺外科学領域に関する研究指導を行う。
2 4	鈴木 正志	耳鼻咽喉科学領域に関する研究指導を行う。
2 5	駄阿 勉	診断病理学領域に関する研究指導を行う。
2 6	高橋 尚彦	循環器内科・臨床検査診断学領域に関する研究指導を行う。
2 7	武内（山本）珠美	臨床心理学、母子臨床、学校臨床領域に関する研究指導を行う。
2 8	谷川 雅人	生物物理学領域に関する研究指導を行う。
2 9	寺尾 岳	精神神経医学領域に関する研究指導を行う。
3 0	徳丸 治	生理学領域、特に酸化ストレスの病態と抗酸化に関する研究指導を行う。
3 1	波多野 豊	皮膚科学領域に関する研究指導を行う。

3 2	花田 俊勝	細胞生物学領域に関する研究指導を行う。
3 3	花田 礼子	神経生理学領域に関する研究指導を行う。
3 4	濱田 文彦	生体構造医学領域に関する研究指導を行う。
3 5	平松 和史	医療安全管理医学領域に関する研究指導を行う。
3 6	藤木 稔	脳神経外科学領域に関する研究指導を行う。
3 7	松浦 恵子	人間生命医科学領域に関する研究指導を行う。
3 8	三股 浩光	腎泌尿器外科学領域に関する研究指導を行う。
3 9	宮崎 英士	総合診療・総合内科学領域に関する研究指導を行う。
4 0	宮本 伸二	心臓血管外科学領域に関する研究指導を行う。
4 1	村上 和成	消化器内科学領域に関する研究指導を行う。
4 2	山岡 吉生	環境・予防医学領域に関する研究指導を行う。
4 3	渡邊 亘	臨床心理学、心理療法領域に関する研究指導を行う。
4 4	阿南 雅也	運動器理学療法領域、特に身体運動のバイオメカニクスに関する研究指導を行う。
4 5	飯田 法子	臨床心理学、福祉臨床、子育て支援領域に関する研究指導を行う。
4 6	伊波 英克	微生物学領域に関する研究指導を行う。
4 7	加来 信広	整形外科領域に関する研究指導を行う。
4 8	河野 伸子	臨床心理学、発達臨床、心理療法領域に関する研究指導を行う。
4 9	河野 康志	産科婦人科学領域に関する研究指導を行う。
5 0	川村 岳人	地域福祉、社会的孤立への介入に関する研究指導補助を行う
5 1	下田 恵	医化学領域に関する研究指導を行う。
5 2	紀 瑞成	組織細胞化学領域、特にリンパ学に関する研究指導を行う。
5 3	中里 直樹	社会心理学、心理的ウェルビーイング領域に関する研究指導を行う。
5 4	泥谷 直樹	分子病理学領域に関する研究指導を行う。
5 5	廣中 秀一	腫瘍・血液内科学領域に関する研究指導を行う。
5 6	廣野 俊輔	障害者福祉に関する研究指導を行う。
5 7	松尾 哲孝	マトリックス医学領域に関する研究指導を行う。
5 8	松本 俊郎	放射線医学領域に関する研究指導を行う。
5 9	松本 由美	社会保障に関する研究指導を行う。
6 0	溝口 剛	臨床心理学、青年期の心理臨床、学生相談領域に関する研究指導を行う。
6 1	三好 禎之	生活保障、生活構造領域に関する研究指導補助を行う。
6 2	村上 裕樹	実験心理学、情動、神経生理心理学領域に関する研究指導を行う。
6 3	池永 恵美	臨床心理学、障害児者心理、臨床動作法領域に関する研究指導を行う。
6 4	岩野 卓	臨床心理学、認知行動療法、産業臨床領域に関する研究指導を行う。
6 5	菅田 陽怜	基礎理学療法領域、特に神経科学を基盤とした理学療法の効果検証と開発に関する研究指導を行う。